

海外調査報告

【海外視察調査】

海外視察調査は、県政の諸課題に関する調査を海外の先進地において実施し、議員活動に生かし、県政に反映させていくことを目的として実施しています。

議事堂1階の議会図書室に視察調査報告書を備え付けており、自由に閲覧していただけます。

県議会新政みえ四名（西塚宗郎・福田慶一・田中博・稲垣昭義）は、約二週間かけて、バンクーバー、ビクトリア、バンフ、モントリオール、ケベック、トロントを視察してきました。以下、視察内容を簡単に報告させていただきます。

カナダ政権与党であります、リベラル党のBC州の州支部を訪問し、カナダ連邦、州の政治課題、地方分権など様々な問題について議論しました。日本では、出生率が一二九と過去最低になり、年々下がっていることから、国策の課題ではあります。カナダの移民政策から学ぶことが多いように感じました。

ビクトリア市では、地方自治のあり方や、議会のあり方などについて議論を行いました。議会は英国のパリッシュに似たものであり、非常に住民の声を反映できる形になっています。例えば、ビ

三重県議会四名（永田正巳、杉之内昭二、岡部栄樹、野田勇喜雄）は、九月二日から九月十二日の日程でデンマークでの福祉政策と行政改革、スペインでは、観光立国と観光・文化産業について調査を行った。

コペンハーゲンにある社会省を訪問し、視察研修のコーディネーターからデンマークにおける福祉政策と行政改革について説明を受けた。単独では、社会福祉の実行が困難なので市町村合併が進んでいる。県の役割は、病院の経営が主な仕事になり、十四県が合併して、五県になる。市の標準的な人口約三万人を単位として今の県の課題や権限移譲を市レベルで施行、二七五市町村自治体から合併して百の自治体へ減少、移行する。オーデンセ市の日欧文化交流学院に宿泊し福祉教育の調査を行った。フィン県副知事、福祉保健部長らと



クトリア市は島ですが橋はありません。BC州の州都でありますから、非常に不便なように思いますが、住民たちが、橋を架けると治安が悪くなり、たくさん人が移り住んできたりと住みにくくなるため反対しました。結果、橋は架けず、定期便を出すことになりました。日本であれば、効率等を求め必ず橋を架けていると思います。これからは、本当の豊かさは何かをもう一度考え直し、あえて不便を受け入れる政策も必要なのではないかと感じました。

その他、教育行政のあり方、観光行政のあり方などたくさん学ぶべきことがありましたが、紙面の都合上書けませんので、詳細はこちらのHPをご参照下さい。

<http://www.dream-21.jp/h16-9kanadasisatu.htm>



県行政一般について、フィン県スベンホー市庁舎を訪問し、助役から行政改革にもなう市町村合併の状況などの説明を受けた。さらに、最新の高齢者介護施設を訪問し、現地の状況を研修した。

スペインでは、マドリッドにあるカスケード・レオン州の観光事務所を訪問し、観光立国としてのスペインや地方の観光行政の状況について、所長から説明を受けた。世界遺産など内陸型の観光戦略を進められている理由は、コンピューター導入やロボット化による都会の雇用が進まなくなること、観光サービスは、マンパワーを必要とすること、さらに企業誘致で環境悪化の問題等で環境保全をするなど向上させるのに良い手法である。

サンチャゴ・デ・コンポステーラの大聖堂をバックに小雨のなか、貴重な先進地の視察調査を終えた。